

安田女子大学
日本文学科公開講座

備後の文学

◎日時・講座内容

第1回 2020年12月12日(土) 13:30~15:30

「近世小説に描かれた鞆の浦」 島田 大助 教授

質疑応答 15:10~15:30

第2回 2020年12月13日(日) 13:30~15:30

「『文選(もんぜん)』と菅茶山の詩語」 富永 一登 教授

質疑応答 15:10~15:30

◎会 場 ふくやま文学館研修室(福山市丸之内1-9-9)

※JR福山駅北口から西北へ徒歩8分

◆ふくやま文学館の駐車場利用は有料となります。

◎開場時間 13:10

◎対 象 一般の方・大学生・高校生

◎募集人数 30名(先着順 定員になり次第締め切らせていただきます)

◎受講料 無料

◎申し込み方法

ハガキまたはメールで①~⑤を明記し、下記申し込み先へ
お申込みください。

①郵便番号 ②住所 ③氏名(ふりがな)④電話番号 ⑤参加日

※1枚のハガキで複数名申し込み可。ただし、①~⑤は全員分記入してください。

◎申し込み締切日 11月30日(金)必着

◆受講の際は、マスクをご着用ください。

【申し込み先】

安田女子大学文学部 日本文学科事務室 公開講座係

〒731-0153 広島市安佐南区安東6-13-1

電話082-878-9172(日本文学科事務室直通)

E-mail: nichibun.box@yasuda-u.ac.jp

▶公開講座申し込み



E-mail

【個人情報の取り扱いについて】

住所・氏名・電話番号等の個人情報については、この講座の目的以外には使用いたしません。

●講座の目的

今回のテーマは、「備後の文学」です。

東京、京都、大阪など、文化を発信する大都市があります。文学作品の多くも、こうした場所を舞台として作られます。ふと、立ち止まって周りを見ると、私たちが生活する町にも多くの文化があります。

今回は、私たちが生活する備後に生きた菅茶山が残した漢詩文、また様々な文学作品に描かれる鞆の浦を取り上げます。

この講座を通して、私たちが生活する町、及び、備後の文学について、今一度、考えていただければ幸いです。

●講座の内容

第1回 2020年12月12日(土) 13:30~15:30(質疑応答 15:10~15:30)

「近世小説に描かれた鞆の浦」

島田 大助 教授

『万葉集』にも歌が残る鞆の浦は、古代から栄えた港町です。歴史上でも重要な港であったことは、『太平記』などの記載から明らかです。近世期においてもその評価は変わりません。井原西鶴は、多くの地方を舞台として作品を書きました。鞆の浦は、『好色一代男』(天和2年)、『男色大鑑』(貞享4年)に描かれています。これらの作品をもとにして、江戸時代の鞆の浦を考えてみたいと思います。

第2回 2020年12月13日(日) 13:30~15:30(質疑応答 15:10~15:30)

もんぜん 「『文選』と菅茶山の詩語」

富永 一登 教授

りょう

しょうめい

『文選』は梁の皇太子だった昭明太子(501—531)が525年頃に編纂したアンソロジーです。7世紀、唐代になると、『文選』は詩文創作の手本とされ、以後、中国古典文学の型となり、日本でも奈良、平安時代から読み継がれました。なぜ『文選』の評価がそこまでになったのでしょうか。備後の漢詩人菅茶山の詩語にも触れながら考えてみたいと思います。